

学校教育自己診断の結果と考察

1：児童生徒

NO	設 問	令和5年度の 肯定的回答率	令和4年度 との比較	令和4年度	令和3年度
1	学校は楽しい。	79.5	↓ 9.6	89.1	96.3
2	授業は、教材（プリントや資料など）や教え方など工夫され、わかりやすく楽しい。	79.1	↓ 15.4	94.5	92.6
3	先生はわたしたちのことを大切にしている。	90.9	↓ 1.8	92.7	96.3
4	自分の将来や進路について、考える機会がある。	62.8	↓ 1.9	64.7	56.4
5	先生は、いじめについてわたしが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	81.0	↓ 5.7	86.7	76.5
6	気軽に相談できる先生がいる。	73.3	↓ 11.6	84.9	83.6
7	自分やほかの人の大切さや社会のルールについて学習する機会がある。	86.0	↓ 4.4	90.4	88.5
8	先生はわたしたちの心や身体のことをわかってきている。	84.1	↓ 8.4	92.5	98.1
9	先生は、周りの人とのつながりに気を配ってくれている。	81.8	↓ 6.2	88.0	96.3
10	行事は、楽しく参加できるよう工夫されている。 (本校、精神、阪大のみ回答)	78.6	↓ 4.0	82.6	86.2
11	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	72.5			

【考察】

昨年度からのアンケート10項目すべての比較において、今年度の肯定的回答率は低下している。特に、昨年度から10%以上減少している肯定回答率79.1%の項目2と肯定回答率73.3%の項目6については、教師としての授業力と生徒への指導力が問われる項目である。この2つの項目の低下に伴い、10%未満5%以上の低下を示す項目1の肯定的回答率の低下が結果として表れたと考える。また、項目5と項目8、項目9についても、項目6の内容と関連する児童生徒指導に係る内容のため、必然的に低下したと考える。5%未満の低下を示す項目3や項目4、項目7、項目10については、例年同様に本校の特色でもある入・退院による在籍期間の短さや授業可能な日数、学習機会の制限等が理由として挙げることができる。また、コロナ禍が明けたことにより、学習形態が以前の生活に戻りつつある生活及び地域校と、各病院でのコロナ禍同様の感染症対策下での本校の授業形態との違いや差を感じての結果であると考え。新しく設定された項目11については項目2と関連し、教材の見せ方や教え方、児童生徒の学び方を効果的に指導・支援するために使用することができていたのかが問われる内容である。学校としては、ICT機器のハード・ソフト面の管理・更新とともに、教員一人ひとりが児童生徒の深い学びの実現に向けた効果的な各種端末の活用ができ

るような授業の実現に向け、関係部署と連携して研修の充実を図っていきたい。

2：保護者

NO	設 問	令和5年度の 肯定的回答率	令和4年度 との比較	令和4年度	令和3年度
1	子どもは、学校を楽しみにしている。	93.8	↓ 3.3	97.1	96.6
2	授業内容は、子どもに合うように工夫されている。	100	0	100	100
3	学校の教育方針に共感できる。	100	0	100	100
4	学校は、子どもの将来や進路などについて適切な指導を行っている。	93.1	↑ 6.9	86.2	77.4
5	学校は、いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる。	100	↑ 4.5	95.5	73.1
6	学校は、人を大切にできる心や社会のルールを守る態度を育てようとしている。	100	0	100	90.0
7	学校は、ホームページ等で教育情報の提供について努力している。	100	0	100	86.2
8	教育相談や懇談のときなど、子どもの学習目標の設定に親も関わる機会が設けられている。	100	↑ 3.1	96.9	86.2
9	懇談や学校行事等に参加したことがある。	84.0	↑ 31.8	52.2	76.9
10	学校は、子どもの身体や心の状態を理解している。	96.9	↓ 3.1	100	93.5
11	学校は、前籍校や病院と連携して指導にあたっている。	96.7	↓ 3.3	100	96.9
12	学校は、日常の教育活動において、子どもの人権を尊重している。	100	0	100	93.8
13	学校は、地震や台風警報等への対応を保護者に伝えている。	87.0	↑ 1.0	88.0	58.6
14	学校は、子どものことについて、保護者の悩みや相談に応じてくれる。	96.7	↓ 3.3	100	93.5
15	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	95.8			
16	行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。 (阪大のみ)	100	0	100	85.7

※精神分教室では、保護者に配布していない。

【考察】

昨年度と比較し、項目4と項目9の2項目については、肯定的回答率が5%以上変化・上昇している。項目4については、項目2や項目3、項目6などの高い肯定的回答率に対応しての妥当な上昇の結果であったと考える。項目9の大幅な肯定的回答率の上昇については、コロナ禍が明けたことにより、コロナ禍であった令和3・4年度と比較し、懇談や学校行事等に参加することのできる機会が増えたことが要因と考える。また、項目16の肯定的回答率の高水準維持にも双方向的な好影響があったものとする。昨年度よりも4%未満低下した項目については、保護者アンケート内の「院内学級に在籍するようになり、親・看護師さん以外の方々と関わることができ、楽しくすごしている姿を見て、通わせて良かったと思っています。」や「いつも楽しい授業をしていただき、ありがとうございます。先生方の親切なご対応に親子で感謝しています。」「短い期間でしたがとても丁寧に対応してくださり感謝しています。辛い病院生活も楽しく過ごすことがで

きました。」など、今後も保護者の方々の理解が得られるような関係づくりのために努めていきたい。

3：病院関係者

NO	設 問	令和5年度の 肯定的回答率	令和4年度 との比較	令和4年度	令和3年度
1	子どもは、学校（病棟）で学習することを楽しみにしている。	83.3	↓ 1.7	86.0	85.5
2	学校は、子どもの身体や心の状態を理解し、適切な指導を行っている。	90.8	↓ 1.8	92.6	85.9
3	学校は、子どもの治療や入院生活に良い影響がある。	98.0	↑ 0.1	97.9	92.7
4	学校では、子どもの個人情報を守られている。	95.2	↓ 3.1	98.3	90.8
5	学校は、病棟と連携して教育活動を行っている。	90.8	↑ 4.0	86.8	85.2
6	病院と学校の定期連絡会は役に立っている。	85.1	↑ 3.4	81.7	73.0
7	学校は、病弱教育の専門性向上のために努力している。	92.1	↑ 1.8	89.3	83.7
8	問題が起こった際、学校は迅速に対応することができている。	91.7	↓ 1.1	92.8	84.7
9	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	88.1			
10	学校の行事は、子どもが楽しく参加できるように工夫されている。	94.7	↓ 3.4	98.4	91.0

【考察】

昨年度と比較し、すべての項目において肯定的回答率の5%以上の変化はない。しかし、病院関係者アンケート内での記述にも挙げられている、児童生徒対応についての考え方・児童生徒への接し方等に関する内容は、すべてのアンケート項目に関係すると考える。肯定的回答率が80%台である項目1や項目6、項目9、今年度低下した項目については、「病院側が無理だったり、ルールとして決めていたりしていることに対して理解していただきたい。」や「もう少し連携をとっていただきたい。」「子どもの体調を見て、無理のない声かけをお願いしたい。判断が難しいようでしたら、いつでも相談してください。」などのご意見を真摯に受け止め、校内で周知するとともに、改善を図っていきたい。また、項目6の「病棟と学校の定期連絡会は役に立っている。」についても、年々わずかであるが上昇している。しかし、病院関係者からの「定期連絡会の内容は共有されているのか」とあるような、連絡会での内容が周知されていないと感じられるような場面が無いよう努めていきたい。病弱の支援学校において医療と教育の連携は必須であり、「子どもたちは学校へ行くのをすごく楽しみにしています。」や「親子にとっても院内学級は「居場所」であり所属している場がある安心感となっているように思います。」「学校での様子や入院生活について子どもたちが思っていることを共有できたら良いなと思います。」などの肯定的なご意見を大切に、児童生徒が心身ともに成長することのできる関係づくりに学校として努めていきたい。

4：教 職 員

NO	設 問	令和5年度の 肯定的回答率	令和4年度 との比較	令和4年度	令和3年度
1	職員会議や各分掌等、学校組織は有効的に機能している。	74.5	↓ 8.0	82.5	73.9
2	学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。	91.8	↑ 3.1	88.7	93.5
3	学校運営に、教職員の意見が反映されている。	59.1	↓ 4.2	63.3	69.6
4	年度末反省等、教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。	64.4	↓ 3.9	68.3	78.3
5	公開授業や研究授業等、授業力向上に向けた取り組みが推進されている。	85.4	↑ 18.7	66.7	52.2
6	児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている。	100	↑ 6.5	93.5	100
7	児童生徒の指導について、関係教員間でよく話し合っている。	93.9	↑ 2.0	91.9	95.7
8	児童生徒の指導において、家庭との連携ができています。	85.1	↓ 0.4	85.5	78.3
9	児童生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい指導を行っている。	89.4	↑ 10.5	78.9	82.6
10	いじめ（疑いを含む）が起こった際体制が整っており、迅速に対応することができている。	87.2	↓ 6.8	94.0	80.4
11	相談体制が整備されており、児童生徒は気軽に教職員に相談等することができる。	100	↑ 12.5	87.5	89.1
12	児童生徒が楽しく行事に参加できるよう、工夫・改善を行っている。	79.5	↓ 18.8	98.3	89.1
13	児童生徒会の活動が自主的にできるように、支援を行っている。	85.1	↑ 5.9	79.2	58.7
14	教育活動に必要な情報を積極的に収集し、児童生徒・保護者や地域への周知に努めている。	87.5	↑ 6.0	81.5	76.1
15	体罰やセクハラの防止をはじめ、人権尊重に基づいた指導が行われている。	95.8	↓ 6.0	89.8	93.5
16	個別の教育支援計画、個別の指導計画について本人・保護者のニーズを踏まえ作成している。	95.9	↑ 0.2	91.5	91.3
17	医療機関や前籍校との連携が活発に行われている。	91.7	↓ 6.6	98.3	89.1
18	個人情報保護の観点から児童生徒の個人情報に関する管理システムが整っている。	87.2	↓ 7.7	94.9	95.7
19	校内研修は、幅広い教育実践に役立つような内容となっている。	89.6	↑ 3.4	86.2	69.6
20	コンピュータ等の情報機器が、授業などで活用されている。	70.5	↓ 27.8	98.3	95.7
21	学校は児童生徒1人1台端末を効果的に活用している。	75.0			
22	教育活動における悩みについて、気軽に相談しあえる職場の人間関係ができています。	75.0	↓ 6.4	81.4	89.1
23	刀根山支援学校では、服務規律への自覚が高い。	87.5	↑ 13.8	73.7	78.3
24	施設設備について日常的に点検し、自己・災害等時に迅速に対処できるよう、役割分担が明確化されている。	61.7	↓ 10.2	71.9	89.1
25	刀根山支援学校には、他の部・分教室と積極的に協力しようという雰囲気がある。	76.7	↑ 0.8	75.9	76.1
26	地域支援は十分に行われている。	89.6	↑ 22.3	67.3	63.0
27	防災教育・安全指導は十分行われている。	78.0	0	78.0	87.0

【考察】

昨年度と比較し、肯定的回答率が10%以上変化のある項目は、項目5、9、11、12、20、23、24、26の8項目である。上昇・低下した項目では、5つの項目が上昇、3つの項目が低下している。15%以上上昇した項目5については、指導教諭及び研修支援部を中心に授業計画（学習指導案）を作成しての研究授業、研

究協議を実施し、各教科の指導目標及び内容の確認や見直しといった、より良い授業づくりの推進として取り組めたこと結果として表われたと考える。さらに、項目5の上昇に伴い、関連する項目6、7も上昇したと考える。また、最も大きな上昇のあった項目26については、コロナ禍が明けたことにより、地域校からの教育相談や校内研修の依頼や本校から発信した公開研修会などが対面または集合での開催で活発に実施できたことが要因と挙げられる。また、リーディングスタッフや各部署が医療関係者と連携し、地域校の教員または教育関係者のニーズに沿った研修内容であったことを、事後アンケート等の結果から成果を実感できたことも項目14も関連し、要因として挙げられる。15%以上低下した項目12については、各病院でのコロナ禍同様の感染症対策下の継続または一部緩和しつつある実施可能な学習形態において、児童生徒がより楽しく参加できる改善・工夫の在り方を「十分ではない」と教師一人ひとりが感じての結果であると考え。項目20については、コロナ禍でのオンライン授業以上の使用方法や、授業づくりにおける指導・支援等の工夫・改善、Googleを使用した課題の設定などの指導者側の知識及び技能の向上の必要性を感じての低下であると考え。項目21とともに、指導者が活用できる知識及技能を指導・支援することを通して、学習者が思考・判断・表現を通してICT機器の活用を身に付けていけるよう、情報支援部や研修支援部等を中心とした校内研修や他校の実践事例等の情報共有等を活用しながら肯定的回答率の向上を図っていききたい。項目10、11、15、18、22、23については、教員自身のことと児童生徒に対する教員・学校としての姿勢や同僚性が問われる内容であり、教員自身の服務規律に対する意識が13.8%上昇してはいるが、80%後半と高い数値と言えない。児童生徒についても、項目11の数値に反し、項目10、15、18、22は低下または満足できる数値とは程遠い結果となっており、児童生徒の安全で安心な学校づくりに向けた同僚性の充実が、いじめやセクハラ対応への知識及び技能とともに求められ、改善に向けた取り組みを学校として進めていかなければならない。項目18については、先述の項目20、21に関連する項目であり、項目23の上昇とともに、個人情報の取り扱いについては、管理職も含め全教職員で徹底しなければならない内容である。項目24、25については、いずれも肯定的回答率は低い結果であった。項目24については、今年度の防災避難訓練等の実施を受けて結果であると考え。今年度の結果から役割分担や各役割の動き、火元責任者等を見直し、より良い実践を想定した計画を作成し、非常時に対応できるものとしていききたい。項目24については、病棟内に教室のある各分教室は病院側の指示に従って避難を行うことから、「役割分担の明確化」といった自校での判断の難しさが影響していると考え。最後に、項目1、3、4について、項目2で比較的高い数値であり、昨年度よりわずかに上昇していることに反し、肯定的回答率は低く、さらに低下している。具体的に低い評価となった要因については挙げられていないが、前年度の学校の反省を生かした取り組みや学校運営がなされていないと感じている教職員が多いことが分かる。学校運営の改善に向けた方向性については、昨年度も令和4年度の結果と考察で記載されている。教職員だけではなく、児童生徒・保護者・病棟関係者が「楽しい」と感じられるよう、学校長を中心とした具体的な改善案や目標、年間計画の設定、その実行のために全教職員が協力して取り組むことで、改善目標に掲げる学校経営計画の目標の達成を図っていききたいと考える。